

ふじさわ環境白書2026（二次案） 事前質問回答書

2026年10月14日
第9回環境審議会
資料3

審議会委員	担当課	反映判断	部	章	節	項	目	頁	意見・質問	回答
橋詰委員	環境事業センター	反映	2	III	2	(2)	②	149	<u>② 火災事故の防止に伴う分別の見直しの説明文</u> 修正後の149頁、②火災事故の防止に伴う分別の見直しの最後の部分、「令和8年4月から、…「危険ごみ・テープ類」に変更します。」について、この白書の発行が巻頭の「はじめに」にあるように令和9年1月だとすると、「…に変更しました。」とすべき。	ご指摘のとおり修正いたします。
矢出委員	環境総務課 廃棄物担当	反映	2	III	1	(1)	①	136	<u>① 総ごみ排出量についての説明文と総ごみ排出量等の経年変化の整合</u> 本文記載の令和7年度の総ごみ排出量や内訳の数値が、表の令和7年の総ごみ排出量や内訳の数値（網掛けなので、修正後の値）と異なるので、統一した数値にすべきかと思います。	修正内容の反映が漏れていましたので、表の記載内訳と統一いたします。
		反映せず						140	また、p.136は不燃・大型ごみの合計排出量ですが、p.140は不燃ごみだけの排出量なので、どちらかに統一した方が良い。	P.136については、藤沢市で排出される全てのごみの量について記載しているため、大型ごみ等も含めていますが、P.140のごみ処理有料化は可燃ごみ及び不燃ごみを対象としています。 ごみ処理有料化前後のごみの排出量の経年変化は、有料化の対象となっている可燃ごみ及び不燃ごみとし、対象外の大型ごみ等は除いて記載しています。
矢出委員	環境事業センター	反映せず	2	III	1	(3)	①	140・149	<u>「平成18年度可燃ごみ組成分析」「令和7年度可燃ごみ組成分析」</u> 有料化前後で「可燃ごみに占める資源物」の割合（比率）が減ったとのことですが、有料化前後で可燃ごみ量が同じなら、比率で評価できますが、可燃ごみ量が同じでないなら、比率では評価できないし、また、比率の数値自体も信頼性が乏しいと思います。 また、p.149のようにごみの分別の変更などがあると、比率での比較がさらに難しいのでと思います。 有料化前後で「可燃ごみに占める資源物」や、有料化の前後で「可燃ごみ」が減ったどうかは「可燃ごみに占める資源物」の排出重量や、「可燃ごみ」の排出重量で評価すべきかと思います。そのうえで、有料化前後で「可燃ごみに占める資源物」や「可燃ごみ」の削減比率を併記するとわかりやすいかと思います。	ご指摘のとおり、各年度において比較対象となる重量には差がありますので、そこから算出する比率や数値では正確な比較はできないものと思います。 しかしながら、その重量差は大きく異なるものではないため、経年的な傾向を把握する資料としましては比較可能と考えております。